

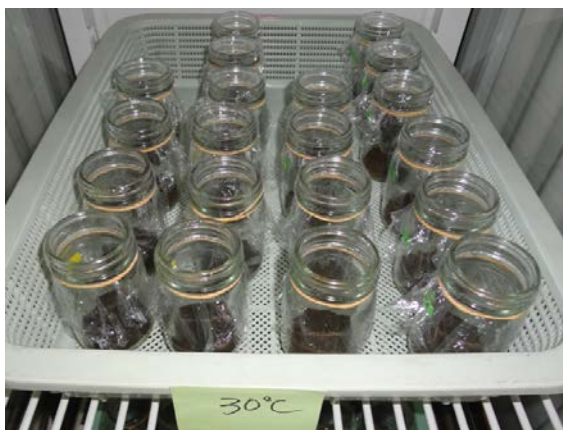
あなどれない？ 地力窒素パワー

野菜花き試験場

一般に野菜を栽培する場合、肥料として窒素、リン酸、カリといった養分を畑に施しています。なかでも窒素は特に重要で、生育や収量に大きく影響します。野菜は化学肥料に由来する窒素だけでなく、「地力窒素」も吸収しています。「地力窒素」とは土壌中の有機物が土壌微生物によって分解される過程で生じてくる窒素で、化学肥料のように効き目は早くありませんが、じわじわと土壌中に出て野菜に吸収されるのが特徴です。

「地力窒素」を好んで吸収するレタスでは、収穫期の「地力窒素」の吸収割合は、夏どり作型で74%、秋どり作型では80%に達するとの報告もあります。「地力窒素」は、温度が高いほど微生物は活発に活動し、気温が高い夏場ほど窒素の発生量が多くなります。夏どり作型の生育期間は春先で気温が低いのに対し、秋どり作型の生育期間は夏場の高温期であり、レタスの秋どり作型は夏どり作型に比べ、生育期間の温度が高く、このことが秋どり作型の方が「地力窒素」の吸収割合が高い原因と考えられます。

このように、地力窒素の働きは、野菜の栽培に大きく関わっており、今後、温暖化が進み、気温が高くなれば「地力窒素」の発生量も変化すると考えられることから、野菜花き試験場では、地球温暖化に対応した試験研究の一環として、「地力窒素」発生量の推定とそれに応じたレタス施肥方法の確立に向けた研究を行っています。



地力窒素測定の様子
(土を瓶に入れ、恒温条件で4週間培養後に分析)

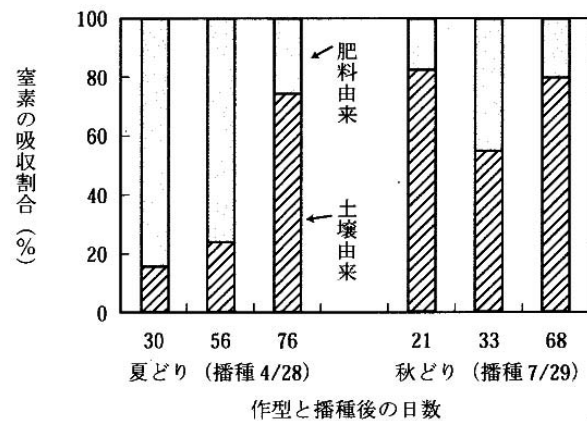


図 レタスの吸収窒素の由来別割合
(野菜花き試験場)

担当者

矢口直輝

電話番号

0263-52-1148

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[野菜花き試験場ホームページへ](#)